

周波数が 240 に決まったいきさつ

JJ1SXA 池

以前、保存版「**50.240MHzSSB** モービルグループ」(240の歴史、その生い立ちから現在へ by JJ1SXA)と言う小冊子を皆様にお配りしましたが、その後に参加された局でお読みいただいていない局もあると思いますので、240という周波数がどのようにして決まったか、名称はどうして決めたか、いきさつを簡単に記述したいと思います。

ちなみに、前記小冊子はまだ若干の在庫が残っています、希望の方は申し付け下さい、在庫切れになったらご勘弁です。

(一寸古くなったので、近い内に現在の状況を盛り込んだ追補版を書くつもりです。)

240グループがスタートしたのは、第1回アイボール会があった、昭和**56**年**1**月**16**日のことで、その時に、連絡周波数として、**50.240MHz**を決めたのでした。

集まった**10** 数局の使用リグは、**FT680**、**TR1300**、**IC502**、**RJX610**、**LS60**、**TS600** に、アンテナは、**1/4λ**、**3/8λ**といったような装備でしたが、**FT680** が最新鋭機で、**TS600** は固定機ながら専用ケーブルの使用で**12V** 運用ができたのです。

当時は、モービル運用は、**144** の **FM** が主体で、**50** の **FM** は少数、**430** は、まだレピーターが無い頃で数はもっと少なかったと思います。

50 の **FM** モービルの当時の交信距離は、せいぜい **15km** 位、モービルからもっと遠距離通信をしたい、それなら **SSB** だと思っていた局達の集まりでした。

また、**50** の **SSB** の運用も、**50.250** あたりまでが普通使われる周波数で、強力な **E** スポ発生時でも、せいぜい **50.300** あたりまでが使われていたような時代です。

連絡周波数は決めても、モービル局は少ないし、**CQ** を出しても、なかなかモービル同士 **QSO** は難しいから固定局にも相手をしてもらいたいし、そうかといって余り固定局に迷惑をかけるような周波数ではまずいだろうと考え、**50.250** あたりが良かろうと言う事になったのですが、そこが使われていたら、上下に **QSY** しなければいけないだろうとなった時、**TR1300** の出せる上限の周波数が **50.250**、これでは上へは **QSY** は無理、それでは、そこから **10KHz** 下がったところにしましょうということで、**50.240MHz** に決まったと言うわけです。

モービル局の数も増えてきて、迎えた **E** スポの時期、**50.240MHz**での **CQ** 局をコールするモービル局の多さに、皆さん仲間ですか？モービルグループの方ですね？との問いかけ、これをきっかけに **50.240MHzSSB** モービルグループと称しましょうとなり、晴れてネーミング決定です、連絡周波数を決めた時ネーミングしたわけではありません、また、**SSB** モービルグループだから**CW**は遠慮してくれとのご意見もありますが、スタート当初(ネーミング前)から、**SSB** で無理な時は **CW** だというのが慣行です。

また、現在の「**240** グループの主旨」は、スタート **2** 年後のころに色々なことがあり、その時に皆さんの意見をまとめて私が文章化したものです。